



キャプション

# かわはく No.74

## CONTENTS

開催予告：令和4年度特別展

「海なし雪なし火山なしーないけどある！埼玉との深い関係ー」……………2

開催報告：令和3年度春期企画展「珪藻<sup>けいそう</sup>～水の中の小さな住人～」……………4

学芸員コラム：伝統漁法が危ない！……………5

学芸員コラム：“かわはく”にオオタカ……………6

利用促進研修会について……………6

開催報告：令和4年度荒川ゼミナール「川を知るウォーキング(前半)」……………7

開催報告：「泥染めに挑戦」……………7

イベント情報コーナー 8・9・10・11月……………8



開催予告

令和4年度特別展

「海なし雪なし火山なしーないけどある！埼玉との深い関係ー」

開催期間：2022年7月9日（土）～8月31日（水） 会場：本館第2展示室

埼玉には「ない」、「海」と「雪国（豪雪地帯）」と「火山」。私たちには関係ない…と思いきや、実は埼玉の自然や私たちの暮らしに深～いつながりがあります。

日頃接する機会の少ないこれらの自然を紹介し、埼玉との知られざる関係について、様々な資料から読み解きます。埼玉の意外な一面が見える展示です。

企画：県立自然の博物館

実施・運営：県立川の博物館

特別協力：船の科学館「海の学びミュージアムサポート」



ウナギの漁労についても紹介します。また、現在も多くの動植物が海から来ることや、食卓にのぼる海産物の話題などを通じ、海とのつながりについて考えます



## I. 埼玉にない…憧れの海！

海辺の多種多様な生物を紹介し、磯や砂浜などの代表的な海の環境や生態系を解説します。また、磯遊びや潮干狩り、ビーチコーミングなど海を訪れた時の楽しみ方や自然観察方法、危険生物についても紹介します。

リバーホールには、海の生きもの水槽を展示し、関東周辺の磯とアマモ場の生物を間近に観察できるようにします。

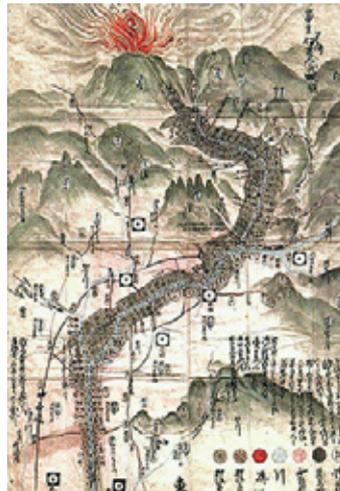


## II. こんなにある！埼玉と海の間

前半では、埼玉の大地を形作る大部分の岩石が海に由来することや、県内から多くの海の生物の化石が見つまっていることを、豊富な岩石標本や化石標本で紹介します。あわせて海由来の資源である武甲山の石灰岩と地域産業との関わりや、海の哺乳類の進化を研究する上で秩父産化石が重要な役割を果たしていることについても紹介します。

後半では、縄文時代から現在まで続く埼玉の人々と海との関わりについて、県内の海進海退と貝塚の関係や、埼玉とゆかりの深いサケ・アユ・

## III. 火山・海洋島の自然



浅間焼け吾妻川・利根川筋被害絵図（部分/長野原町やんば天明泥流ミュージアム蔵）

火山のない埼玉に火山災害をもたらした浅間山の天明噴火（1783年）に関する資料を中心に、火山災害や火山の恵みについて紹介します。

また、火山周辺を訪れた際の自然観察のポイントや、海底火山によって誕生した伊豆諸島・小笠原諸島を

はじめとする海洋島の自然の特徴について、各地の岩石鉱物標本や動植物標本を用いて紹介します。

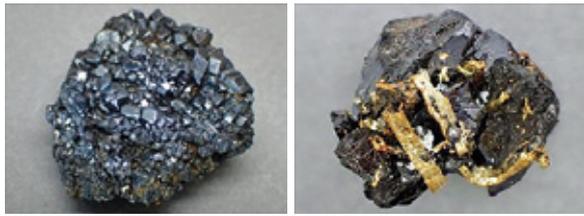
## IV. 足もとに眠る火山の痕跡

火山灰が風化してできた関東ロームや、利根川によって流れてきた火山由来の土砂が、埼玉の歴史や風土に大きな影響を及ぼしてきたことを紹介します。あわせて、火山灰を含む粘土を材料に発展した埼玉の煉瓦産業や、日本煉瓦製造株式会社の設立に尽力した渋沢栄一も取り上げます。

また、埼玉にある様々な海底火山やマグマの痕



跡について、秩父鉱山鉱物を含む岩石鉱物標本と画像で紹介します。



秩父鉱山鉱物(磁鉄鉱・自然金/県立自然の博物館蔵)

## V. 雪国と埼玉の自然と暮らし

雪国の写真や民俗資料、動植物標本を展示し、埼玉の暮らし・自然との違いを紹介します。

また、かつて埼玉にもあった寒冷な時代の痕跡



『北越雪譜』より驛中正月積雪の図(部分/当館蔵)

について、ナウマンゾウなどの化石や現在まで生き残ってきた動植物の標本を用いて紹介します。

### サテライト展示

「火山灰の積もった埼玉のやせた台地が広い農地になり江戸の暮らしを支えた!？」

火山灰が積もった台地を土壌改良した歴史や、育てた農産物の流通について紹介します。

期間：6月24日(金)～9月4日(日)

場所：常設展示室スロープ

### ■関連イベント

#### ○講演会「火山のない埼玉の火山災害」

内容：浅間山の天明噴火が利根川中流域に及ぼした被害をはじめ、知られざる埼玉の火山災害について紹介します。

講師：井上素子学芸主幹(県立自然の博物館)

日時：7月10日(日) 13:30～15:00

場所：ふれあいホール

定員：40名(募集は終了しました)

参加費：無料

#### ○「海の生きものに触れてみよう」

内容：海の日にあわせて、海の生きものをタッチプールで観察しながら学びます。

日時：7月18日(月・祝)

①10:00～12:00 ②13:00～16:00

場所：レストハウス1階

参加費：無料(当日受付)

#### ○「古秩父湾の化石発掘体験」

内容：秩父も昔、海だった！古秩父湾堆積層の転石(小鹿野町産)を割って、海の生きものの化石を探します。

講師：山岡勇太学芸員(県立自然の博物館)

日時：7月29日(金)

①10:00～11:30 ②13:30～15:00

場所：講座室

参加費：300円(材料費)

定員：各回15名(募集は終了しました)

#### ○「海藻押し葉をつくろう」

内容：東京湾周辺で採取したカラフルな海藻を材料に、押し葉をつくります。海の生きものについて考えます。

日時：8月7日(日)

①10:00～11:30 ②13:30～15:00

場所：講座室

定員：各回15名(要事前申込み)

参加費：100円

#### ○「雪と氷のワークショップ in 埼玉」

内容：雪のレプリカやダイヤモンドダストの観察、氷のペンダントづくりなどを行い、雪と氷について学びます。

主催：中谷宇吉郎雪の科学館友の会

講師：神田健三顧問・柏田剛明会長

(中谷宇吉郎雪の科学館友の会)

日時：8月11日(木・祝)

①10:00～12:00 ②14:00～16:00

場所：ふれあいホール

定員：各回20名(要事前申込み)

参加費：無料

(本イベントは、子どもゆめ基金助成活動の一環として開催します)

#### ○「学芸員による展示解説」

内容：企画した学芸員が展示の見どころ、ポイントを解説します。

日時：7月31日(日)・8月28日(日)

①11:00～11:30 ②14:30～15:00

場所：第2展示室

定員：各回10名程度

参加費：無料

(研究交流部 三瓶ゆりか・森圭子)



## 開催報告

# 令和3年度春期企画展 「<sup>ひいそう</sup>珪藻 ~水の中の小さな住人~」

開催期間：2022年3月19日（土）～6月19日（日）

どこにでもいる身近な生き物であるにも関わらず、あまり知られていない珪藻について、知ってほしいとの思いから本企画展を企画しました。

珪藻研究者の方々から顕微鏡写真を豊富に提供していただき、解説文は平易な表現を心掛けて作成しました。

不思議な形の珪藻の写真の数々に驚く方も多かったようです。展示室入口の顕微鏡には淡水珪藻のアートスライドを設置しました。開期途中で明視野から暗視野観察に変更し、それを見るために再来館してくださいました。



珪藻アートスライド  
明視野(上)と暗視野(下)

埼玉県は、小林弘氏を始めとする多くの珪藻研究者によって珪藻研究の盛んな土地でした。その功績は県内の市町村史や報告書などに多く残されています。企画展では、県内の珪藻研究者の1人、安藤一男氏の標本や文献（県立自然の博物館蔵）を展示しました。近年国内で問題になっている外来珪藻ミズワタクチビルケイソウについても紹介しました。県内での確認地点については、今年度の『紀要』にも投稿しており、今後県内の情報が寄せられることを期待します。

珪藻の利用として、珪藻土（昭和化学工業株式会社提供）を、利用されている製品とともに展示しました。

また、サテライト展示として「こんなところに、珪藻！」（常設展示室スロープにて、2022年2月8日（火）～6月19日（日））を同時開催しました。こちらはもともと珪藻の電子顕微鏡写真を展示する予定でしたが、「珪藻がどんなところにいるのを知りたい」との声を受け、急遽内容を変更し、かわはく敷地内を中心に、川、海、池、水槽などにいる珪藻を写真で紹介しました。

## ■関連イベント

○かわはく研究室「水の中の『も』ってなんだ？」（3月20日）・顕微鏡で珪藻を見よう！（4月10日・5月4日・5日）

両イベントとも、リバーホールに顕微鏡を数台設置して、来館者が適宜のぞけるようにしました。荒川と当館敷地内を流れる宮川で採取した試料から、動く珪藻と動かない珪藻に注目して観察してもらいました。子どもから大人まで、楽しんでいただけていたようです。また、コロナ禍のために学校で顕微鏡を使う機会がなかったとの声も聞こえ、顕微鏡を通して微小な世界を知ってもらう機会を提供できたことを嬉しく思います。

○かわはく体験教室「珪藻のペーパークラフト」（3月26日）

前半はかわはく敷地内で珪藻を採取して、顕微鏡で観察し、後半は珪藻の殻の箱型の構造を理解してもらうためにペーパークラフト2種を作成しました。



○「掘って、磨いて、ゲットしよう！私だけのケイソウキーホルダー！」（4月24日）

企画展で珪藻モチーフの金属工芸作品を展示させていただいた東京学芸大学金属工芸研究室にご協力いただき、実施しました。川に見立てた模型の砂利の中に隠れた珪藻型の金属片を見つけ出し、やすりや磨き粉でピカピカに磨いて、キーホルダーに仕立てました。金属片は珪藻をモチーフにデザインして学生が自作したもので、参加者はそれぞれ違う珪藻型の金属片を熱心に磨いていました。

○「染まろう藍色に。ケイソウに。～藍染めでケイソウハンカチづくり～」(6月5日)

本イベントも同様に東京学芸大学金属工芸研究室にご協力いただきました。布を折りたたんで縛る折り紙絞りと、珪藻型の金属片で布を挟んで染める方法とで2度染めし、珪藻模様の藍染めハンカチを作りました。干場には、思い思いのハンカチが並びました。

(研究交流部 三瓶ゆりか)



## 伝統漁法が危ない！

「まや漁」という伝統漁法をご存じですか？  
流れの速い浅瀬の河床を掘って、魚の産卵場所を人工的に作り（これを「まや」といいます）、そこに集まったウグイ（ハヤ・クキと呼ぶところもあります）を投網で捕獲するというものです。

川の博物館の近くにお住まいの山口政行さん（69）は、祖父の代から受け継ぐ川漁師です。今年も町内を流れる荒川でまや漁を行うと聞き、一連の作業をビデオで記録することにしました。

4月8日、砂利の河原が広がる清流の岸边に「令和四年度 うぐい産卵場 山口政行」と書いた木札を立てて準備が始まりました。これは知事の許可を受けた証拠となります。

最初に流れと直角に「真杭」と呼ぶ6本の鉄棒を打ち込み、真杭の上流側に竹笹を束ねた「瀬止め」をあてることで流れを弱めておきます。次にジョリンという道具で真杭の下流側の河床に、直径1m、深さ60cmほどの「壺穴」を掘ります。

次いで壺穴の中とその周囲に、河原で集めたきれいな小石を敷き詰め、壺穴の深さを30cmほどにします。そして再度ジョリンで河床をならすのですが、この調整は長年の経験が活かされます。あとは産卵期を迎えて腹を赤く染めたウグイが寄るのを待つばかり。しかし、何日経ってもウグイは姿を見せません。本来なら壺穴の中が真っ黒になるほど集まるのですが……。

まや漁の漁期は4月1日から5月31日までと決められています。しかしひと月経っても変化が見られないため、5月12日をもって今年のまや漁を断念したとの連絡が山口さんからありました。

残念でなりません。かつては1回の網で10kgものウ



グイが捕れたとのことですが、今や夢物語。仕方なく、投網を打ってから網を引き上げるまでの一連の動作を現場で行っていただき、ビデオに収録しました。この映像は当館ホームページで視聴することができます。

まや漁の空振りは昨年と同様で、2年続きの不漁となりました。埼玉中央漁協管内の荒川では、下流の熊谷市内でも3名がまや漁を行いました、やはり成果はありませんでした。

原因の一つは川の環境変化、もう一つがカワウによる食害だと山口さんは言い切っています。かつて盛んに行われた砂利採取によって河床の岩盤が露出し、河川改修によって魚が隠れる場所も減っています。カワウは群れをなして行き来するだけでなく、同じ場所で生活する居着きの鳥もいます。今回荒川の河原でまや漁の記録をしている間も、周辺には常に数羽のカワウの姿がありました。カワウによる捕食被害は甚大です。自治体や漁協で駆除・防除の活動を行ってはいるものの、成果は上がっていないようです。

バスやヘラブナ釣りは盛んですが、このままでは荒川のまや漁は遠からず消滅することでしょう。まや漁だけではありません。許可を得たうえで行う数々の伝統漁法は、今や窮地に陥っているのです。（研究交流部 大久根 茂）



産卵場所を作る



投網を打つ



## 学芸員コラム

### “かわはく” にオオタカ

当館の周辺には広い河原や斜面林が存在し、さまざまな鳥類を観察することができます。注目すべき点として、優秀なハンターでもあり、精悍なその姿が人気のワシタカやフクロウなどの猛禽類を観察することがあります。江戸期には武家の鷹狩りにも使われ、里山の猛禽類の代表ともいえるオオタカは、上空を飛行している姿や獲物を捕らえて食べた痕が確認されています。また、たびたび観察されるだけでなく、当館近隣でも繁殖している可能性があります。

オオタカにまつわる観察の一例として、本館南側の斜面林にはこの辺りでは最も高いハリエンジュの木があり、そのてっぺんにオオタカが止まっていることがあります。周囲が見渡せるこの位置に止まる鳥は頂点に立っている存在といえるのではないのでしょうか。普段はオオタカよりもカラスがこの位置で鳴いているのをよく見かけます。オオタカとカラスは常にライバルであり、この

「てっぺん」は覇権争いの現場と言えるかもしれません。

第1展示室の蔵出しコーナーでは、県立自然の博物館の協力の下、オオタカや日本を代表するイヌワシなどの猛禽類を8月31日まで展示しています。この機会に迫力ある猛禽類をぜひご覧ください。（研究交流部 藤田宏之）



本館南側の斜面林のオオタカ

## 利用促進研修会について

かわはくでは毎年、小中学校の教員を対象とした利用促進研修会を開催しています。

利用促進研修会とは文字通り、小中学校がもっと博物館を利用してくれるよう促進を図るために行っている研修会です。博物館に行くと、どんな体験ができるか知ってほしいという職員の思いのもと開催しています。当記事では、そんな利用促進研修会について、どんなことをしているのか内容を紹介します。

具体的には、敷地内の設備の紹介だけにとどまらず、かわはくの強みでもある、すぐ近くにある生きものや石など自然観察ができる河原も活用した授業を体験していただいています。

学芸員が専門性を活かした体験授業を行っているのですが、実際に川の中に入っただき、水中にいる生きものを観察する授業もあります。ほかにも、かわはく敷地内にある巨大な荒川の立体地形模型を使った川の歴史と防災についての解説

や、すぐ近くにある荒川の水を汲み、水質を調べる実験も行っています。

本研修会は教員向けなので、一般の方は参加できません。しかし、本記事で紹介した体験授業自体は、一般の方も参加できます。ご希望の方はお問合せください。今後ともかわはくをぜひ、ご利用ください。（研究交流部 室井 美穂）



利用促進研修会の様子（かわはく敷地内にて）



## 開催報告

# 令和4年度荒川ゼミナール「川を知るウォーキング(前半)」

開催日：令和4年4月24日(日) & 5月1日(日)

現地を実際に歩いて見学して河川について学ぶイベント、「荒川ゼミナール」。今年度もコロナ禍に負けず、継続して開催しております。今年度は上半期に2回開催しており、下半期も3コースの開催を予定しています。

上半期に出かけた川は、都幾川(東松山市～嵐山町にかけて)と荒川(川幅日本一地点のやや上流部分)です。

都幾川では、令和元年東日本台風の被害を受けて現在埼玉県が進めている堤防の改修工事の進捗状況と、改修工事前の堤防と改修工事後の堤防の規模を見比べていただきました。

荒川では、川幅日本一地点の上流側を中心に見学して回ったのですが、この地点、川幅日本一地点の川幅が2,537mもあるのに対し、見学場所の周辺はその約4分の1、川幅が「わずか」約

640mしかないという、一見するとちょっと不思議な地点になります。なぜこのような両極端なポイントが存在するのか？ その答えは、やはりというか「荒川の洪水」。川幅が日本一なもの、逆に川幅が急に狭くなるのも、両方とも荒川の洪水から人々の暮らしを守るための工夫であり、その点を参加者の皆様に知っていただきました。

現地を実際に歩いて河川について学ぶ、「荒川ゼミナール」。開始してからの積み重ねがだいぶ増えてきました。今後はただイベントを開催するだけでなく、何か別の形でこの積み重ねを還元できるように、努めていこうと考えております。

(研究交流部 羽田武朗)

## 開催報告

# 「泥染めに挑戦」

開催日：令和4年6月18日(土)

植物などを煮出して染液をつくり、媒染剤で色を定着させる、というのがいわゆる草木染めの方法ですが、今回は媒染剤の代わりに土を使いました。媒染剤は金属化合物の水溶液で、その種類によって、同じ染液でも仕上がりの色が異なります。一方土には、もともと岩石の中に含まれていた金属類が入っており、それを利用して色を定着させようというのが今回の泥染めです。タマネギの皮の煮汁を染液に、使った土は、田んぼの土と畑の土。仕上がりの色に違いはあるでしょうか？

染液につけたり土を揉みこんだりする間に時間があるので、もう一つの泥染めにも挑戦。赤くて粘土質の土を布にひたすら揉みこむ、という方法です。赤い土は沖縄のような暖かいところで出来て、関東では殆どみられません。今回は特別に準備した赤い土を使って染めてみました。細かい粒子が繊維のすき間に入り込んで染まるので、揉めば揉むほど赤く染まります。

さて、タマネギを使って染めた方は？ 田んぼの土は渋い茶色、畑の土は黄色がかった茶色になったようです。田んぼの土には鉄が多く、火山灰が風化してできた畑の土にはアルミニウムが多いので、仕上がりの色合いが異なりました。土はその成り立ちによって性質が違うということ泥染めを通して感じていただけたでしょうか。

(研究交流部 森 圭子)



### 8月

7/9/土～8/31/水

特別展「海なし雪なし火山なしーないけどある！  
埼玉との深い関係ー」

- 1/月** かわはくであそぼう・まなぼう「かわはく開館・水の日記念イベント」  
時間：①10：00～12：00 ②13：00～15：00  
内容：両記念日にちなみ、水について学習します。
- 7/日** 特別展関連イベント「海藻押し葉をつくろう」  
時間：①10：00～11：30 ②13：30～15：00  
定員：各回15名 ☎  
内容：東京湾付近で採取したカラフルな海藻を材料に、押し葉をつくります。海の生き物について考えます。
- 11/木・祝** 特別展関連イベント「雪と氷のワークショップ in 埼玉」  
時間：①10：00～12：00 ②14：00～16：00  
定員：各回20名 ☎  
内容：雪のレプリカやダイヤモンドダストの観察、氷のペンダントづくりなどを行い、雪と氷について学びます。※本イベントは、子どもゆめ基金助成活動の一環として開催します。
- 14/日** かわはく研究室「田んぼの小さな生きもの」  
時間：13：30～15：30  
内容：田んぼをささえる小さな生きものを顕微鏡で観察します。
- 18/木** かわはく体験教室「伝統漁法体験」  
時間：①10：00～12：00 ②13：30～15：30  
定員：午前・午後各回20名 ☎  
内容：立ち込み釣りや投網など昔から行われていた漁法を体験します。
- 28/日** 特別展関連イベント「展示解説」  
時間：①11：00～ ②14：30～（各回30分程度）  
定員：各回10名程度  
内容：担当学芸員が展示の見どころ、ポイントを解説します。

### 9月

9/23/金祝～11/27/日

秋期企画展「かわはくで生きものを探せ！」

- 4/日** かわはくであそぼう・まなぼう「お月見クイズラリー」  
時間：13：30～15：30  
内容：お月見にまつわるクイズラリーをします。
- 10/土** かわはく体験教室「ジュズダマで遊ぼう」  
時間：①10：00～11：00 ②13：30～14：30  
定員：各回15名 ☎  
内容：ジュズダマってどんな植物？ ジュズダマを使ってプレスレットを作ります。
- 11/日** 科学かい～かがか？！ いくかがか？～  
時間：①11：00～ ②13：00～（各回45分程度）  
定員：各回6組 ☎  
内容：水にまつわる不思議を、科学インストラクターの滝沢先生と一緒に楽しみながら学びましょう！
- 18/日** かわはく研究室「流れる水のはたらき」  
時間：13：30～15：30  
内容：小学校5年生の理科の単元「流れる水のはたらき」について実験で学びます。
- 23/金・祝** 秋期企画展関連イベント「かわはく生きものクイズラリー」  
時間：10：00～15：00  
内容：敷地内の生きもの発見スポットを巡り、クイズの正解を探します。

### 10月

22・23・29・30/土日

かわはくであそぼう・まなぼう「かわはくでハロウィン」  
時間：10：00～16：00（材料がなくなり次第終了）  
内容：ハロウィンを楽しむイベントを館内各所で行います（ハロウィンの衣装をして来館した方にはプレゼントがあります）。

- 8/土** 秋期企画展関連イベント「大きなトノサマバッタを探せ！」  
時間：13：30～14：30 定員：15名 ☎  
内容：当館の広場などでみられるトノサマバッタなどを観察します。※雨天・荒天の場合は中止
- 9/日** かわはく寄席「川にまつわる落語会」  
時間：①11：00～②13：00～（各回30分程度）  
定員：各回40名 ☎  
内容：午前は子供向き、午後は大人向きの川にまつわる落語会を行います。
- かわはく研究室「カタサ選手権」  
時間：13：30～15：30  
内容：身近なものの硬さをモース硬度計を使って調べよう。
- 15/土** かわはく体験教室「落ち葉めくり」  
時間：13：30～15：30  
定員：15名 ☎  
内容：かわはくの敷地内の林の下で、落ち葉をめくって地面の様子を観察したり、土の断面を観察したりして、土について学びます。

### 11月

3/木・祝

秋期企画展関連イベント「かわはく生きものクイズラリー」

時間：10：00～15：00  
内容：敷地内の生きもの発見スポットを巡り、クイズの正解を探します。

荒川ゼミナール  
川を知るウォーキング「新河岸川を歩く4」

時間：10：00～16：00  
定員：20名 ☎  
内容：武蔵野台地に刻まれた海食崖と新河岸川流域の河川改修の痕跡を辿ります。

- 5/土** かわはく体験教室「砂金採り教室」  
時間：13：30～15：30 定員：8組20名まで ☎  
内容：かつては砂金が採れた荒川で、砂金採りにチャレンジします。運が良ければ、砂金が採れるかもしれません。（雨天時は室内でバンニング体験※おみやげはありません）。
- 14/月** かわはく秋まつり  
時間：10：00～16：00  
内容：11/14は埼玉県民の日です。この日はすべての施設が無料で利用できます。（詳しくはHPをご確認ください）
- かわはくであそぼう・まなぼう「木の実あそび」  
時間：①10：00～12：00 ②13：00～15：00  
内容：どんぐりコマやどんぐりヤジロベエづくりを体験します。
- 19/土** 障害者ウィークイベント「映画会 星に語りて～Starry Sky～」  
時間：①10：00～ ②13：30～（上映時間約120分）  
定員：各回40名  
内容：2011年3月11日 東日本大震災、障害のある人と支援者の物語を上映します。
- 20/日** 障害者ウィークイベント「森圭一郎トーク&コンサート」  
時間：13：30～（45分程度） 定員：40名 ☎  
内容：音楽を通して、夢を追う事の大切さを伝えるコンサート
- かわはく研究室「流れる水のはたらき」  
時間：13：30～15：30  
内容：小学校5年生の理科の単元「流れる水のはたらき」について実験で学びます。
- 27/日** かわはくで季節を楽しむ「切紙のライトをつくろ！」  
時間：①10：30～12：00 ②13：00～14：30  
定員：各回12名 ☎  
内容：水車の切り紙などを作り、ランプを作りましょう。

ホームページでも紹介しています！

<https://www.river-museum.jp>

【お願い】①イベントは諸事情により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申込みが必要です。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベント開催日の2日前までです。③定員になり次第締め切ります。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地  
TEL/048-581-8739(研究交流部) FAX/048-581-7332  
ホームページのフォームからお問い合わせいただけます。



2022年7月30日発行

